

マスタープランの基本的な考え方

(将来像について)

- 今機能しているみなとみらいにテコ入れをしなければいけない時期。オフィスや商業についても、今の形で 2050 年に通用するかどうか。国際会議も、今は大収容力が求められているが、IT 等のあり方が変わると、そうでなくなるかもしれない。
- 2050 年に向けた将来像では、教育、人材、市民の生活のあり方考える必要がある。
- 超高齢社会の先進国となる日本の中で、横浜が世界をリードする社会モデルとなることも考えられる。その中で、文化芸術・クリエイティビティ、その他研究・開発、ビジネスが一つとなる将来像もあるのでは。
- みなとみらいでは地盤が丁寧に造られたことで BCP 対応力が高く、現在の企業誘致に繋がっている。長スパンで、これまでやってきた取り組みを果実とするような方向性が良いのではないか。
- 30 年後のライフスタイルを演出する観点が必要。例えば、オペラができたとしても、昼から夜まで時間を費やせるアフターシアターなどを充実させないといけない。

(東京都の関係性について)

- 国内での横浜ブランドはかなり強いので問題ない。海外からの観光を考えると、一定期間は東京も活用しなければならぬだろう。
- 昔は、ニューグランド、中華街、山手地区など、横浜にしかない魅力があり、東京都民がそれを目指して訪れてきた。今は逆に、みなとみらいを越えるショッピングエリアが六本木・丸の内内にあり、それと違う魅力を横浜らしさとして再考する必要がある。
- 東京はある面ではライバルであるが、横浜もしたたかにやっていくところはあると思う。日本人は、1 位になりきれないときに、〇〇三景とか、〇〇百景とか、スタンプラリーとか、ちょっとした違いを売り出して人を寄せていたりもする。

横浜らしさ(テーマ)について

(現状)

- 横浜は成熟しきっており、海路としての役割は終わり、何のテーマの街か分かりにくくなっている可能性がある。
- 横浜は働く場所であっても住む場所でない人もいて、イメージは様々である。
- 横浜のイメージというものが薄くなってしまっている。日本全国や海外の人が共通で横浜を語る一つのイメージを定め、それに応じた土地利用にしていこうガイドが必要なのではないか。

(都市構造)

- 横浜は、モノセントリック(一極集中)となっているアジアの他都市とは異なり、ポリセントリックにできていることは非常に重要。
- 都心臨海部のユニークで良い点は、海に直接面して都心部が広がっていること。東京都と違った魅力としてアピールできる。

(他都市との比較)

- 横浜らしい強力なテーマを考えていかないと、人もお金もなかなか集まらず、都市総合ランキングの 10 位以内には入れない。シンガポールは、食・文化全てにおけるアジアのキャピタルと言い切っている。(キャピタル・オブ・アジア)
- 世界の外国人観光客の人気の都市とされている広島では、資料館を目的としてきた方が、街の美しさに感動し、広島の大ファンとなって、自ら情報発信している。横浜に来られた外国人観光客が、横浜は良かったよと、世界に発信していくようにしないとイケない。
- 最近では中国の天津が大きく変わり、川沿いがきれいになっている。シンガポールも対岸の開発に着手しているが、横浜でみなとみらいを造ったときと同じことをやっても、あんまりかと思う。
- 臨海部だけ見た時に、世界の港町と比較してどういう位置にあるのか。港町でも川沿いの閉鎖的なものや、ニューヨークのような島になっている所がある。他の港町と比べたとき、港と歴史に加えて横浜の売りがもう一つあると良い。
- 横浜は首都ではないので、全方向ではなく、成長力の高いところを伸ばすのが良い。例えば、最初の 10 年はここ、次はここと、時代毎に成果をみながら対象を変えても構わない。地勢学的に見て、横浜がアジアから見て有利なものは何か、誰からの目的地となろうとしているのか、その上で競合はどの都市なのかを考えていかなくてはならない。
- 岩手県では、宮沢賢治に出てくるイーハトーブという言葉を打ち上げている。今では岩手県の観光ののぼり旗になるなど、ひとつの分かりやすいイメージとなり、大きな経済効果を生みだしている。

(他地域との連携)

- 横浜のブランドをどうつくっていくか。横浜で全てをやるのも戦略の一つだが、例えば、箱根とか鎌倉とか三浦半島とか、他地域と連携していく中で横浜の良さを出していくようなことが、もう一つの戦略として考えられるのではないか。

(歴史)

- 港町としての歴史と文化を中心にすべきではないか。アジアでは、古い建物を残す都市計画に変わってきているが、その中で、横浜は本物が残る街という方向性も考えられる。新しい開発を目指しても、上海の方が進んでいる。
- 横浜の特色として、文明開化を支えたのは実は富士山から来た水であるとか、掘り起こしていくと色々ある。改めて確認していくと、競争力も上がっていくのではないか。

(文化芸術)

- 文化に関する投資がまだまだ足りない。ソフトのマネジメントの部分も重要であり、港湾緑地などで文化芸術活動をやりやすい環境をつくるだけでも変わってくる。

(イノベーション)

- 横浜は歴史的にみると、外国人の商人が集まり全国の人が絹・糸を売りにきたという流通革命が起こるなど、パラダイムシフトを起こす街という役割を果たしてきた。一方、今ではその役割が東京に移ってしまっている。横浜にとって、イノベーションは非常に重要なテーマである。
- 横浜は、アジアのイノベーションのハブとして、色々なことができるのではないか。環境省も横浜市への取り組みは全国に広げたいと話しており、世界の要人もたいてい首相官邸に伺った後、横浜に立ち寄ると聞いている。
- 課題先進国日本として、街が色々なチャレンジをしていないと、魅力的にはならない。MICE の誘致の際にも、特色が盛り込めないと競争力にはならない。
- 例えば、ライフイノベーションについて多く議論がされているとか、行き詰って商品開発がなかなか進まない企業がブレイクスルーするような、フューチャーセンターのような機能を街が果たせば、魅力的な街になると思う。
- 横浜はデザイン・クリエイティブを大切にしている街であるが、更に、社会をデザインするようになれば、若者もエキサイティングするだろう。

(アーバンデザイン)

- 世界的なアーバンデザインのトレンドは、公共空間をいかに、人の集まるパブリックスペースに転換していくかということにある。ニューヨークのタイムズスクエアも、道路を通行止めにして、人の集まる所に転換している。横浜でも、道路空間自体も使われ方を見直し、もっと人が歩いて楽しい都心にしていく、そこに文化芸術が絡んでいくようなイメージがあっても良い。
- 今後を考えていく上で、これまで横浜で培ってきたものに対するチャレンジとリスクが必要ではないか。
- 例えば、アーバンデザインの分野では、首都高を掘割にした 70 年代・80 年代のチャレンジの成果がある。それらに敬意を払い、ハマっ子のマインドや、プライドを明確化して、皆が共有できる形にしていくことが大切である。今あるテーマだけでなく、これからの時代の変化を見通した横浜のテーマは何かということが非常に重要。世界の都市が環境に取り組む中、横浜は今ある生活の中で環境未来都市を実現しており、汎用性が高い環境未来都市となっていることが、大きな価値を持つ可能性がある。
- 将来像が一番重要。横浜の経済を支えている都心臨海部が、横浜の成長エンジンという要素を忘れず、他をどのように連携させていくのか見ていきたい。

まちづくりの基本的な考え方

(都市づくりの手法について)

- 建替えや再開発を進める従来型の都市づくりよりは、むしろ、リノベーションを進めるような、地価を顕在化させない都市づくりを、特に旧都心部で展開したら良い。マーケットから評価されていない部分については、思い切った方針転換をすることが必要。
- ドイツのハーフェンなどの海外都市では、特徴をうまく活かして再開発をしているが、日本では土地利用を変えようとした途端、品川・大崎のようなオフィスビルや幕張新都心のようなものになってしまう。
- 都心臨海部を土地利用転換していく際に、こういった形で、今まで取り組まれてきたクリエイティブシティを顕在化できるのか、整理して頂けると良い。また、水際線には、開かれた施設を配置していくと良い。

(都市機能について)

- 現在の都心臨海部は、商業・業務、住宅、観光の要素が三すくみ状態にある。例えば、住宅がこれ以上増えると、観光のイベントがやりづらくなり、オフィス街として企業立地も難しくなる。
- 市庁舎の移転を控え、民間のオフィスの流動性は高まる。今でも都心の家賃が高い中、横浜でスタートアップする企業を増やしていく環境をどのようにつくっていくのか。
- 業務・商業と住居、観光系と、分けるのではなく、相互に良い影響を与え、相乗効果で伸ばしていくようなことでないと、限られた範囲の中でやっていけない。各地区で特徴をしっかりと出していく事が必要。

(まちづくりのターゲットについて)

- 首都圏の高齢者はマーケットとして一番大きいのではないかと。時間やお金もあり、街を楽しむ目も肥えている。観光客として落とす金額は少ないかもしれないが、高齢者が満足できる場所をつくることを示しても良いのでは。
- 日本にきている中国人、韓国人などの留学生は、自分たちの時代は再生の時代と捉えており、日本の歴史的な街並み再生の手法を学びに来ている。
- 外国から来た人が相互に出会うある種のハブになるようなやり方があるように思う。
- 将来は、やはり若者と企業を集めることが重要。現在のロンドンにすばらしいアートやパフォーマンスが生まれているように、若い人達に共感される場所とならないといけない。高齢者にやさしいまちづくりと言った途端に、魅力を失くしてしまう。

(みなと交流軸について)

- この大きな軸によって、開発するものが必ず結ばれる、多面的なランドデザインになると思う。
- 人・モノが動くため何かをやるというより、漠然としたイメージとして広げておくことはできないか。常に軸のイメージを市民や街の人達が持ち、色々な媒介となりながら、みんなでこのゾーンを考えていけば良いのではないかと。

(瑞穂ふ頭について)

- 環境問題を提起はできないか。例えば、緑の問題であるとか、環境の基準を横浜並みとするような新たな考え方ができないか。

施策のアイデア

(ビジネス)

- 国際化を進めるには、例えば 24 時間仕事ができる環境を整えるなど、時間的・空間的なバリアを取らなければいけない。
- 企業誘致の面でも、国際企業に対する思い切った環境整備や、インセンティブを与える施策も必要ではないか。
- 京浜臨海部は土地が安く、他都市からはうらやまれる研究拠点が分散して立地しており、うまく使えれば良い。専門性の強い人達が楽しめる街とか、研究拠点と連携した本社機能が横浜にきているとか。東京に比べ土地が安いので、横浜は投資すれば、こんなに豊かなスペースが得られるというストーリーもありそうである。
- ドイツでは、3都市だけに数百億を集中投資するコンペがあり、選定を受けるために、都市側で世界の企業に呼び掛けてプランを作る。結果として、企業や大学などが誘致でき、人間や留学生も集まる。日本では平等性を重んじるため、そういう戦略がなかなか打てない。
- 外国人の子供をすぐに小学校に入れたり、留学生を下宿させたりする場がなかなかつけれない。

(観光)

- 観光の質を考えると、横浜には、買い物のみを主目的とする観光客というよりも、文化を学ぶという視点で訪れる方を観光客をより引き入れたい。そういう人たちに評価される街になることが本物と感じる。
- 日本の素材は、アジアの人達から見ても安全でおいしいと言われているが、日本人側がそれに合う料理をつくっていない。上海料理と北京料理は違うように、違うニーズを持っている人には、その味がちゃんと分かるコックがいないと対応できない。

(都市デザイン)

- アジアのどの都市も歴史を大事にするというが、それはブレモダンに対する敬意であるため、それを保存していくとテーマパークのような形にもなってしまう、アイコンとしての歴史性の保存、デザインとなる。
- 横浜の関内などには、高度経済成長から日本を支えてきた建築として、一人一人の小さな会社やオフィスのゆりかごになったような中低層の建築物が非常にたくさんある。それが 10 年 20 年とすると立派な歴史的資産となる。今きちんと手を打ち、継承しなければならない。
- 歴史性を育ててきたものとして、官主導というより、民がつくり上げてきた街の活力、街のつくられ方に敬意を表して、それを継承することを考えていきたい。

(環境)

- 技術的な発展と将来像をうまく組み合わせると良い。例えば、環境技術についても、分散型で効率の良いものができており、まちの拠点がお互いに連携し合い、効率や安全性を高めることがより可能になってきている。情報技術についても、立地の良いこの場所で、環境への取り組みが見えると、より価値を高めていける。
- シカゴのイメージを一掃したミレニアムパークでは、ハーブとか非常に多様な植物があり、樹木中心でない緑のあり様が提示されている。横浜港を再生するときにも、新しい緑のあり方や、クリエイティブシティの一環としての色々な土地利用などを仕掛け、それが港に入ってくる時の横浜港の美しさに繋がるよう演出できると、東京港には無いものになる。
- 海をきれいにするため、シンガポールのように工場をつくり、山下公園の前から段々と進めることを考えている。横浜は海をきれいにすることで、アジアで売りものになるかもしれない。

(文化・芸術)

- 大きなオペラ劇場を建てる際には、稼働率や営業的な面を慎重に考えていかなければいけないし、建物をつくるだけでなく、専用のオーケストラや歌手の団体、音楽監督、それに付随するたくさんの人を抱える必要がある。
- 同じプログラムでは東京に勝てないので、横浜ではここでしか聴けないものをつくっていく必要がある。例えば、横浜出身のバレエダンサーが世界で活躍していることから、バレエ学校とバレエ劇場、それに特化した宿泊施設、日本初のバレエ専用のホールなども考えられる。
- ロンドンでは、ゲーム産業を 1 位に戻すため、産業振興だけでなく、教育、ビジネス、規制、コピーライトなど、色々な税制も含めて、包括的に戦略を練り直している。
- 成長と創造性とイノベーションとは非常に関係していて、それが都市の魅力にも重なってくる。色々な部局が連携をして、更に議論をする必要がある。
- 横浜は世界の音楽に門戸を叩いた日本を代表する場所で、いわゆる吹奏楽やジャズの発祥の地である。ただ、その音楽や歴史がモニュメントとして見えない。
- 文化施設は、新しいものより、いかに年を重ねてきたのが重要視される。長い目で考えると、神奈川県民ホール、みなとみらいホール、KAATなどを横浜の歴史として残しつつ、文化都市としてのモニュメントをつくっていくのが良い。